



頭部 MRI で偶然認められる Thornwaldt's Cyst について

伊 東 久 雄*, 高 橋 範 雄*, 中 山 弦*
打 田 よ し え*, 尾 藤 香*, 幅 浩 嗣*

*松波総合病院放射線科

はじめに

Thornwaldt's cyst は鼻咽頭後壁の notochord の遺残より発生する比較的稀な嚢胞である。通常の頭部 CT では OM line より頭側にスライスされることが多く鼻咽頭は描画されないが、MRI は矢状断の撮像が可能なおあるいは後頭蓋窩の描画に優れており延髄レベルよりスライスされることから頭部ルーチン検査で鼻咽頭後壁の観察が可能である。我々は最近、頭部 MRI で Thornwaldt's cyst と思われる 4 症例を経験した。

方法および結果

昭和 63 年 3 月より 12 月までの 10 カ月間に松波総合病院放射線部において施行した 1509 例の

頭部 MRI を retrospective に検討した結果、鼻咽頭後壁正中部に嚢胞性腫瘤を 4 例 (0.27%) に認めた。男性 2 例、女性 2 例で年齢は 30 歳から 59 歳、平均 46 歳であった。MRI の検査目的はいずれも脳血管障害あるいは脳腫瘍疑いであった。使用した MRI 装置は Singa (GE 社製)、磁場強度は 1.5 tesla である。撮像パルス系列はスピンエコー法を用い、 T_1 強調像 (T1-WI) として、繰り返し時間 (TR) msec / エコー時間 (TE) msec = 400/20、プロトン密度強調像 (PD-WI) として TR/TE = 2000/30、 T_2 強調像 (T2-WI) として TR/TE = 2000/80 とした。

嚢胞の形状は横断像では円形あるいはくびれのある長円形を示し、矢状断像では長円形から紡錘形を示した。大きさは 6 ~ 12 mm であった。MRI における信号強度は、4 例とも T1-WI、T2-WI および PD-WI で高信号を示した。症例を呈示する。

キーワード nasopharynx-MR imaging-Thornwaldt's cyst

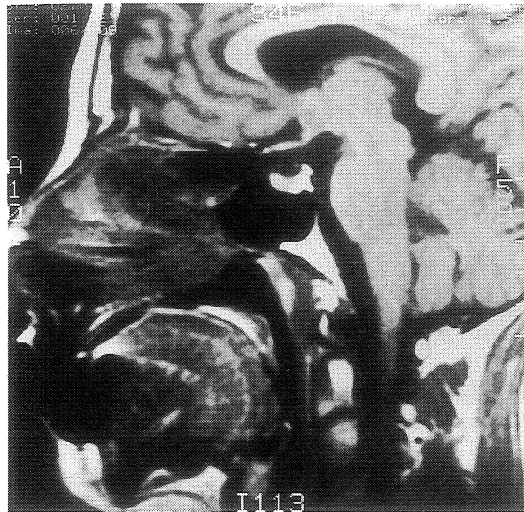


図1 a : T₁強調像 (鼻咽頭正中矢状断像)

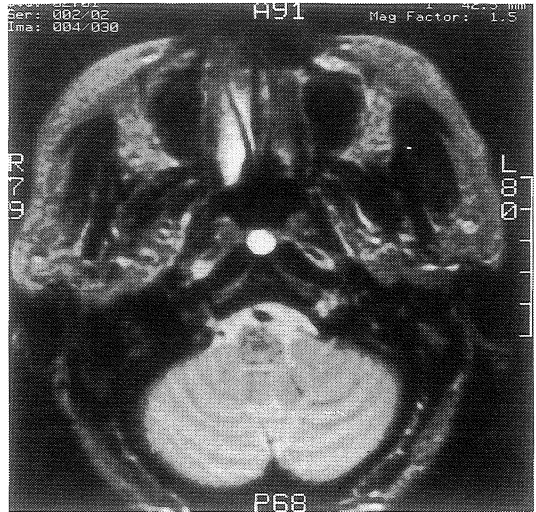


図1 b : T₂強調像 (鼻咽頭横断像)

症例：58歳，女性，10日前に眩暈および悪心・嘔吐あり近医を受診し脳血管障害を疑われた。当院で施行されたMRIでは，橋および大脳基底核に多発性の小梗塞巣を認めた。T1-WI (図1 a)では鼻咽頭後壁に周辺の軟部組織よりやや高信号を示す長円形の領域を認める。T2-WI (図1 b)では鼻咽頭後壁正中に8mm大の円形の高信号を認め，嚢胞性腫瘤を示唆する。PD-WI (図1 c)ではT2-WI同様に高信号を示す。

考 察

notochordは通常は胎生4カ月で消退し，成人では唯一，脊椎椎間板の髄核として存在する。しかしながら，鼻咽頭後壁の軟部組織内に稀にnotochordの遺残を認めることがあり，Thornwaldt's cystのoriginとされている¹⁾。notochordは一部で咽頭粘膜上皮と接し，内腔は気道粘膜上皮でおおわれ，咽頭の炎症性変化により鼻咽頭後壁正中の嚢胞として認められるように

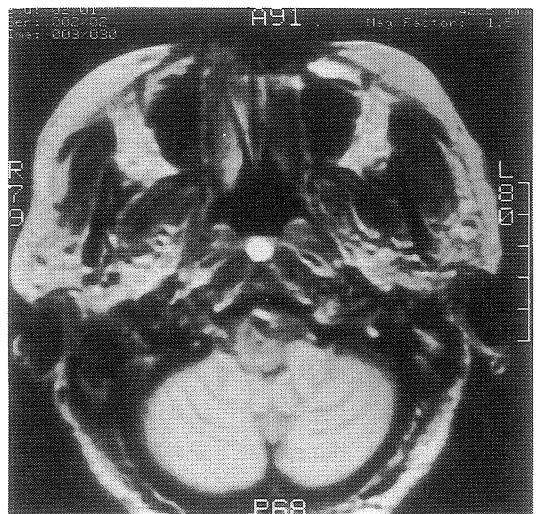


図1 c : プロトン密度強調像 (鼻咽頭横断像)

なる²⁾。通常は無症状であるが持続する鼻咽頭への内容液の排出，臭気，味覚の異常あるいは後頭部痛を伴うこともある。

Thornwaldt's cystの頻度については，今回の我々の検討では約1500例中4例(0.27%)と，

受付年月日 平成1年6月12日

別刷請求先 (〒501-61) 岐阜県羽島郡笠松町田代185-1 松波総合病院放射線科 伊藤久雄

Ford らの報告³⁾とほぼ同様の結果であった。頭部単純写真における notochord の石灰化に関して Bonneville らは約 7000 例中 7 例 (0.1%) に鼻咽頭後壁に 2mm 大の楕円形の石灰化を認めたと報告したが⁴⁾, 今回の我々の症例では明らかな石灰化は認めなかった。

Thornwaldt's cyst は X 線単純写真や断層写真では、鼻咽頭後壁上部より内腔に突出する円形あるいは楕円形の軟部組織陰影として描出され、CT では鼻咽頭後壁内の正中に造影効果のない低吸収域を示す腫瘤として認められる²⁾。MRI では、T1-WI で同様の部位に円形の高信号を示す病変として描画されるが、この T1-WI における高信号は分泌された粘液の濃縮あるいは炎症性の debris による³⁾。MRI は任意の断層像が容易に得られること、骨によるアーチファクトのないこと等より、鼻咽頭軟部組織の描画に優れており⁵⁾, ルーチン検査で Thornwaldt's cyst に遭

遇する機会も増えているものと思われる。

文 献

- 1) James AE Jr, MacMillan AS Sr, MacMillan AS Jr, et al.: Thornwaldt's cyst. Br J Radiol, 41: 902-904, 1968
- 2) Weber AC: Pathology of nasopharynx 3rd ed. In: Taveras J, Ferrucci JT, Jr. Radiology: diagnosis/imaging/intervention, Lippincott, Philadelphia, 1986: 97
- 3) Ford WJ, Brooks BS, Gammal TE: Thornwaldt cyst: an incidental MR diagnosis. AJNR, 8: 922-923, 1987
- 4) Bonneville JF, Belloir A, Mawazini H, et al.: Calcified remnants of the notochord in the roof of the nasopharynx. Radiology, 137: 373-377, 1980
- 5) Teresi LM, Lufkin RB, Vinuela F, et al.: MR imaging of the nasopharynx and floor of the middle cranial fossa part 1. normal anatomy. Radiology, 164: 811-816, 1987

Incidental Diagnosis of Thornwaldt's Cyst with MR Imaging

HISAO ITOH,* NORIO TAKAHASHI,* GEN NAKAYAMA*
YOSHIE UCHIDA,* KAORU BITOH,* HIROTSUGU HABA*

** Department of Radiology, Matsumami General Hospital,
Kasamatsu-cho, Hashima-gun, Gifu*

A retrospective review of approximately 1500 brain MR imaging revealed four case of Thornwaldt's cyst which derives from the remnant of notochordal tissue in the posterior nasopharyngeal wall. The patients were asymptomatic and the diagnosis was incidental. MR imaging of the brain demonstrated a round high-signal intensity of median posterior nasopharynx on both T_1 -weighted image and T_2 -weighted image.